

すぐに わかる えびののこつ
いっき わかい えびのんこつ



きょうまちふつかいち
京町二日市

きょうまちしょうてんがい きょうまちふつかいち はじ
-京町商店街のおこりと京町二日市の始まり-



へいせい ねん きょうまちふつかいち ようす
平成26年(2014)2月1日京町二日市の様子

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

もくじ
目次

しょうてんがい
1. 商店街はこうしてできた・・・1

きょうまちふつかいち
2. 京町二日市のはじまり・・・4

きょうまちふつかいち
3. 京町二日市はどこであるの・・・8

ちず
(地図)



しょうてんがい 【1. 商店街はこうしてできた】

ひと ふつかいち
人がいっぱいの日市。

みせ
お店もたくさんです。

ふつかいち ひら しょうてんがい
さて、この日市が開かれた商店街は
どのようにしてできたのでしょうか。



え どじだい お まさき いいの かく
江戸時代も終わりのころ、真幸・飯野・加久

とう かごしまはん さつまはん ねんぐまい いま
藤からは、鹿児島藩（薩摩藩）に年貢米（今の

ぜいきん おさ かごしま
税金のようなもの）を納めるため鹿児島の

かじき うま せ つ はこ
加治木まで米を馬の背に積んで運んでいまし
た。





しかし、^{はこ}運ぶ^{とちゅう}途中の^{みち}道が^{けわ}険しくて^{うま}馬が^{てんらく}転落し

たり、^{とうぞく}盗賊が^{しゅっぼつ}出沒して^{ねんぐまい}年貢米が^{うば}奪われてしま
うことがありました。

そこで、^{はんちょう}藩庁（^{いま}今の^{けんちょう}県庁のようなもの）に

^{ねが}お願いして、^{ねんぐまい}年貢米を^{しょうちゅう}焼酎に^か代えてもらいま
した。

しょうちゅう こうじょう まさき いいの
焼酎の工場が真幸や飯野にできて、

かごしま
鹿児島からたくさんの酒造り職人が来まし
た。

めいじ せいなん えき
明治になり、「西南の役」の

せんそう しょうちゅうこうじょう かさい
戦争により焼酎工場は火災

あ へいさ
に遭い、閉鎖されました。



さかづく しょくにん かごしま かえ ひと
酒造り職人は鹿児島に帰る人もいました

まさき うつ す しょくにん しゅぞうぎょう しょうばい
が、真幸に移り住んだ職人が酒造業や商売

はじ きょうまち しょうてんがい
を始めたりして京町の商店街ができたとい
うことです。



【2. 京町二日市の始まり】

しょうてんがい
商店街はできましたが、京町二日市
はどのようにして始まったのでしょうか



めいじ たいしょう
明治から大正にかけて「紺屋どん」と呼ばれ

そめものや
る染物屋がありました。

くや
この紺屋どんでは、



しんねん きゅうしょうがつ がつ
新年（旧正月：2月

はじ ごろ おか
の始め頃）を迎える

なかおいのすけ
中尾猪之助で
ございます



ふじん はつぞ
ときに婦人たちが初染め

しんねん はじ いと ぬの そ
（新年に初めて糸や布を染めること）をする習



ふじん まいとし
わしがあり、婦人たちは毎年

さそ あ みせ おとず
誘い合って店を訪れていま

した。

みせ にんき たか そ あ ま ふじん
店の人気は高まり、染め上がりを待つ婦人た

ちで、^{まちあいしつ}待合室

はいつも^{まんいん}満員

でした。



これに^め目をつけた^{しゅじん}主人は、^{まちあいしつ}待合室の^{きやく}客に、

^{そめもの}染物のほか^{たんもの}反物（^{きもの}着物を一着^{いっちやくぶん}分仕立てる^{ぬのじ}布地）

^{にちようざっか}や日用雑貨（^{せいかつ}生活に^{ひつよう}必要な^{しなもの}品物）なども^う売ること

^{おも}を^{おも}思いつきました。品物は^{しなもの}飛ぶように^と売れまし
た！



ほかの^{しょうばいにん}商売人たちも、^{そ あ}染め上がりを^ま待つ^{きやく}客

^{じぶん}に^{しなもの}自分の品物を^う売るように^うなりました。

きんじよ しょうちゅうじょうぞうじよ くろまつとくたろう
近所の焼酎醸造所の黒松徳太郎は、

しょうちゅう やすう はじ
焼酎の安売りを始めました。

まいとし がつまつじつ きゅうしょうがつまえ
毎年1月末日（旧正月前）

しょうちゅう だいきん しゅうきん
に焼酎の代金を集金して、



に がつついたち ふつか かんしゃ ひ
2月1日と2日を感謝の日としました。

ひ とくい しょうたい しょうちゅう の
この日はお得意さんを招待し、焼酎を飲

ほうだい
み放題にしてもてなし、とてもにぎわいまし
た。



み おな しょうてんがい ごふくや
これを見た、同じ商店街の呉服屋・

こまものや かなものや みせ じき あ
小間物屋・金物屋などの店が、この時期に合わ

きょうそう やすう はじ まち そと
せて競争して安売りを始めたので、町の外か

きゃく しょうてんがい く
らも多くの客が商店街に来るようになり、こ

か ものいち たんじょう
こに買い物市が誕生しました。



たいしょう ねん ねん はじ きょうまち
大正9年（1920年）に始まった京町

ふつかいち いぜん にがつついたち ふつか おこ
二日市。以前は2月1日と2日に行われていま

いま がつ だいいちどようび にちようび ひら
したが、今は2月の第一土曜日と日曜日に開か

れています。また、道路も当時の商店街の道路

ではなく、京町温泉駅前から約2kmが歩行者

てんごく やく てん みせ なら しない
天国となり、約400店もの店が並び、市内・

しがい けんがい まんにん ひと おとず
市外・県外から10～20万人もの人が訪れ

みなみきゅうしゅう さいだいきゅう かいものいち
る南九州で最大級の買物市となっていま

す。

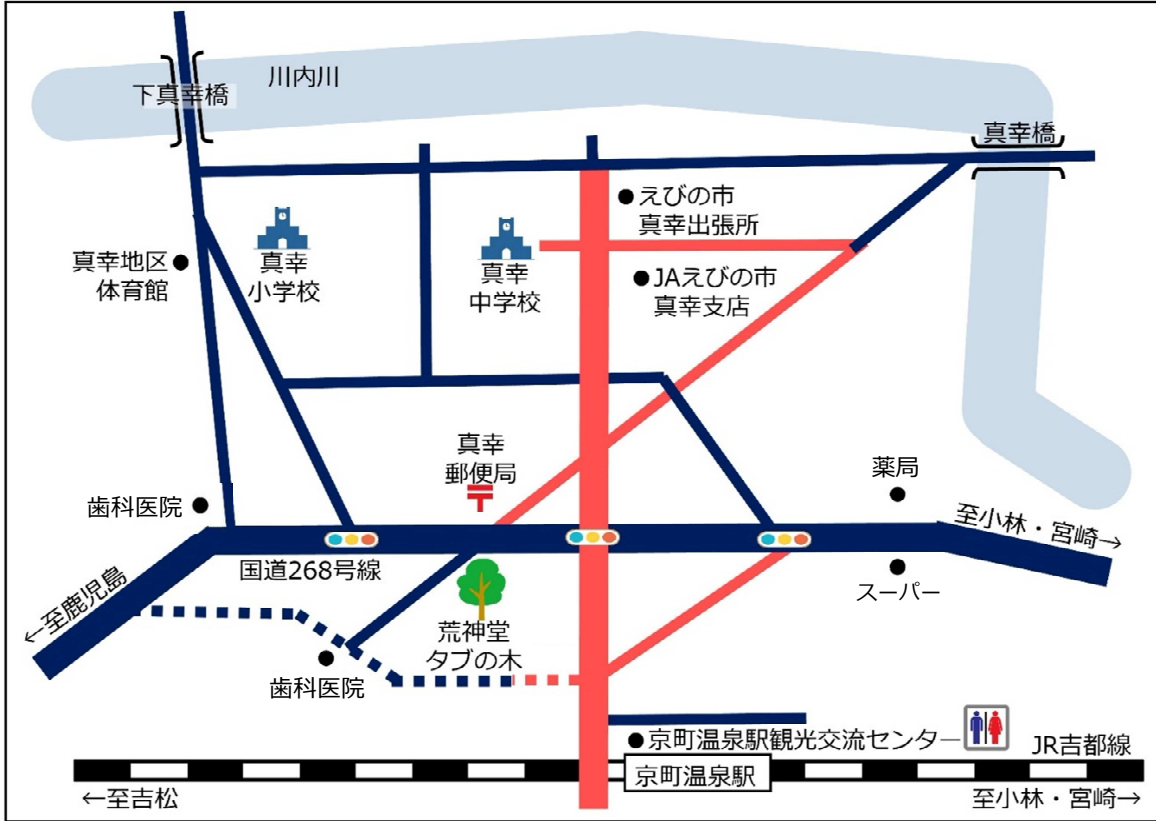


きょうまちふつかいち

【3. 京町二日市はどこであるの】

きょうまちおんせんえきしゅうへん

<京町温泉駅周辺マップ>



どうろ あか せん れいわ ねん きょうまち
 ● **道路が赤の線は令和2年(2020年)京町**

ふつかいちかいさいじ ほこうしゃてんごく ばしよ
二日市開催時、歩行者天国の場所。

どうろ てん せん きょうまちふつかいち はじ ころ
 ● **道路が点の線は京町二日市が始まった頃**

たいしょう ねん ねん しょうてんがい ばしよ
(大正9年/1920年)、商店街があった場所。

まめちしき
<豆知識>

かごしまさんだいいち かわなべふつかいち かじき はついち たかおの
 鹿児島三大市に「川辺二日市」「加治木の初市」「高尾野の
 なか いち かわなべふつかいち きょうまちふつかいち
 中の市」があります。「川辺二日市」は「京町二日市」と
 おな ころかいさい
 同じ頃開催されるそうです。



＜参考文献＞

- ・ 著者：老連史編集委員会 編 書名：『**えびの市老人物語集**』 発行年：平成5年4月
発行者：老連史編集委員会 P208～212
- ・ 著者：えびの市史談会 編 書名『**えびの第24号**』 発行年：平成2年4月
発行者：えびの市史談会 P103～104
- ・ **ふるさと散歩No.64**（広報えびの平成16年2月号） 発行者：えびの市
- ・ **ふるさと散歩No.88**（広報えびの平成18年2月号） 発行者：えびの市
- ・ ウェブサイト <http://kyomachifutsukaichi.com>（えびの市商工会）



しょうわ ねん がつ きょうまちふつかいち
昭和29年（1954）2月 京町二日市

発行/2021年5月

し れ き し み ん ぞ く し り ょ う か ん
えびの市歴史民俗資料館

Facebook



Twitter



〒889-4311 宮崎県えびの市大字大明司2 | 4 6 - 2 TEL/FAX 0984-35-3144